

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校北海道リハビリテーション大学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
専門課程	理学療法学科	夜・通信	18 単位 (585 時間)	13 単位 (320 時間)	
	作業療法学科	夜・通信	14 単位 (435 時間)	13 単位 (320 時間)	
	言語聴覚学科	夜・通信	10 単位 (255 時間)	10 単位 (240 時間)	
(備考) () 内の数字は「学校教育法施行規則等の附則第2条(経過措置)」に基づき「実務経験のある教員等による授業科目の単位数」について用いる授業時数を記載している					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校北海道リハビリテーション大学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人吉田学園ホームページ
<https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 取締役会長	令和7年6月10日から 令和9年度の 定時評議員会 終結まで	経営企画及び管理
非常勤	株式会社 代表取締役 会長	令和7年6月10日から 令和9年度の 定時評議員会 終結まで	学外者からの視点 による運営体制等 のチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校北海道リハビリテーション大学校
設置者名	学校法人 吉田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)の策定においては、原則、厚労省の養成施設指導ガイドラインに基づき、かつ本学学則及び教務内規に則り、まずは12月～2月にかけて「学科会議」及び「全体教務会議」で協議し、最終決議は、3月上旬の学校運営管理者による「運営会議」で最終協議を行い、校長決済を仰ぎ確定する。 4月、当該年度の学生は、シラバスをデータ配信し、公表を行なっている。また、同時に本学「ディプロマポリシー」について説明し、卒業認定及び高度専門士授与の方針や修得目標等を学生に提示している。	
授業計画書の公表方法	https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則(学生便覧に記載)及びシラバスに提示した評価方法・基準に沿って厳正に成績評価がなされ、学科会議において成績評価が適正か慎重に協議された上で、校長が定める成績判定会議において単位の認定を行なう。 なお、学外における臨床実習等の成績評価は、実習先の担当実習指導者の評価を加味し適正かつ客観的な評価判定を行なっている。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価は学則に定めるとおり、成績管理システムを活用し、定期試験やレポート・課題等を100点満点で点数化し、成績判定会議資料の学科・学年・クラス別成績一覧表(個人の各科目における評点の合計を履修科目数で平均化)で順位づけしている。このことから、下位4分の1の学生については明確に把握している。成績不良者(下位層)に対しては、学生本人へ担当教員より点数及びクラス内順位を示し学習指導を行なっている。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) ディプロマポリシー策定は、教員プロジェクトにおいて協議され、学校運営管理者で行なわれる運営会議にて最終的に承認している。公表は、学生にデータ配信されている「学生便覧」に記載されており、本学ホームページにも掲載している。 卒業認定は、本学学則及び教務内規に定めるとおり、各課程で履修する科目すべての単位を修得し、かつ、本学卒業試験に合格した者に対し、卒業判定会議において確定されるものである。 なお、卒業までに履修させる授業時数が理学療法学科は130単位(3,570時間)以上、作業療法学科は134単位(3,570時間)以上、言語聴覚学科は125単位(2,770時間)とする。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校北海道リハビリテーション大学校
設置者名	学校法人 吉田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
収支計算書又は損益計算書	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
財産目録	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
事業報告書	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/
監事による監査報告（書）	https://yoshida-g.gr.jp/johokokai/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
医療		専門課程	理学療法学科			○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	130 単位 (3, 570 時間)	57 (885)	39 (1, 155)	33 (1, 485)		1 (45)
			130 単位 (3, 570 時間)				
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
240 人		201 人	0 人	10 人	47 人		57 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

医療分野 専門課程 理学療法学科の教育課程及び授業単位（時）数は、基礎分野 16 単位（315 時間）、専門基礎分野 43 単位（735 時間）、専門分野 71 単位（2,520 時間）の総計 130 単位（3,570 時間）の 4 年間の授業計画である。授業方法は、講義、演習および実習で構成されている。本校の定める医療技術に関する知識及び技術を教授するとともに、豊かな教養と人格を備えた有能な医療技術者を養成し、よって社会に貢献しうる人材を育成することを目的とする。この目的を達成するためのディプロマ・ポリシー（卒業認定、高度専門士授与の方針）に向けて、カリキュラムツリーを作成し導入・基礎・発展・応用という形で、基礎学力の習得から論理的思考能力の養成、課題解決能力・表現力の向上を目的にカリキュラムが各学年で構成されている。

成績評価の基準・方法

（概要）

成績評価の実施にあたっては、定期試験（追試験・再試験を含む）のほか、担当者が必要に応じて実施するテスト、課題、レポート及びその他平素の学習

活動全般から得られる評価資料などをもとに総合的に勘案して行う。実習の成績評価は、担当教員と実習指導者との合議の上行う。1年次生の成績評価は5段階に区分し、【S、A、B、C、D（不合格）】をもって表示する。成績評価の基準は、授業科目の目標達成度に応じ下記のとおりとする。S（90点以上）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（60点未満）。S～Cを単位認定、Dを単位不認定とする。2年次生以上の成績評価は4段階に区分し、【A、B、C、D（不合格）】をもって表示する。成績評価の基準は、授業科目の目標達成度に応じ下記のとおりとする。A（80～100点）高い程度に達成している、B（70～79点）十分に達成している、C（60～69点）おおむね達成している、D（60点未満）達成していない（不合格）。A～Cを単位認定、Dを単位不認定とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級の認定については、校長、副校長、学科長等で構成された所定の会議を経て、校長が進級を認定する。進級が認められる者は、本校が定める当該学年における全ての授業科目（必修科目）の単位を修得した者とする。卒業の認定については、校長、副校長、学科長等で構成された所定の会議を経て、校長が卒業を認定する。

卒業が認められる者は、当該課程の全ての授業科目（必修科目）の単位を修得し、同時に本校が定める卒業試験に合格しなければならない。なお、卒業試験とは、卒業年次に履修する科目のうち、学科で1科目を指定して行う試験のことを称し、国家試験の日程や形式を考慮して実施する。

学修支援等

（概要）

当校はクラス担任制をとっており、学期始めに個別面談を実施し学生の生活・学修状況を把握することになっている。また、各学年で実施される臨床実習では、希望する病院・施設のアンケート調査を行い、学生の就職に向けた相談窓口としても機能している。4年次には、就職ガイダンスにて就職オリエンテーションを実施、その後、就職説明会を実施し全国各地から参加する病院・施設と顔合わせをし、進路について検討する機会を設けている。就職活動では、就職マニュアルに則って進め、求人票による情報提供、履歴書の確認、個別面談練習等の支援体制を整備している。

学生に対する経済的支援は、募集要項に示しているように入学時に各種優遇制度、学費免除制度、各種支援制度を設けている。また、学費サポート制度として、日本学生支援機構奨学金制度に加えて、吉田学園学費分割納入制度を設けている。

学生の健康管理に関しては、年度始めに定期健康診断を実施し、学内での急病や負傷または休養が必要な場合に、保健室を設けている。また、専門のカウンセラーと悩み事などを話し合えるこころの相談 LINE 相談（北海道保健福祉部）の案内を掲示し、学生に周知している。基本的には、当校は担任制を敷いているので、こちらへの相談が主ではある。

課外活動（地域活動サークル・部活動等）への支援もあり、課外活動時の事

故やケガなどを補償できる災害傷害保険・賠償責任保険を整備し、全学生にご加入をいただいている。学生寮の斡旋など学生への生活支援も実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33 人 (100%)	0 人 (0%)	33 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 整形外科、総合病院、クリニック 等			
(就職指導内容) ・ 個別面接による相談対応 ・ 履歴書作成 ・ 模擬面接指導 ・ 求人情報の早期開示 ・ 就活ガイダンスの実施 ・ 病院/施設等参加による学内就職セミナー開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ 理学療法士 33 名 (100%)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
188 人	16 人	8.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、病気・けが、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 職業意識を高めるために1年次早期から臨床現場への見学（早期暴露体験）を行っている。また、1年次前期より、社会人になるために必要なこと等のマナー講座を実施しており、入学当初から療法士としての意識を高める取り組みを行っている。授業では、学年をまたいだ合同授業も行い、身近な近未来の姿を想像できるようにしている。試験勉強では、低学力者向けに再試験に向けての補習を行って支援している。		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	作業療法学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に 必要な総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼間	134 単位 (3, 570 時間)	73 (1, 305)	22 (645)	40 (1, 755)			
			135 (3, 705 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
160 人		78 人	0 人	6 人	46 人		52 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

授業計画（シラバス）の策定においては、原則、厚労省の養成施設指導ガイドラインに基づき、かつ本学学則及び教務内規に則り、まずは「学科会議」及び「全体教務会議」で協議し、最終決議は、学校運営管理者による「運営会議」で最終協議を行ない、校長決済を仰ぎ確定する。

当該年度の学生には、ポータルサイト上にシラバスを掲示し閲覧可能な状態にするとともに説明、公表を行なっている。また、同時に本学「ディプロマポリシー」について説明し、卒業認定及び高度専門士授与の方針や修得目標等を学生に提示している。

成績評価の基準・方法

（概要）

学則（学生便覧に記載）及びシラバスに提示した評価方法・基準に沿って厳正に成績評価がなされ、学科会議において成績評価が適正か慎重に協議された上で、校長が定める成績判定会議において単位の認定を行なう。

なお、学外における臨床実習等の成績評価は、実習先の担当実習指導者の評価を加味し適正かつ客観的な評価判定を行なっている。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業認定は、本学学則及び教務内規に定めるとおり、各課程で履修する科目すべての単位を修得し、かつ、本学卒業試験に合格した者に対し、卒業判定会議において確定されるものである。また、進級も同様に、進級判定会議において進級が確定する。

学修支援等

（概要）

入学者を対象に、国語・数学等基礎学力のフォローや学習習慣化を促すことを目的とした「入学前準備教育」や、入学後の「リメディアル教育（放課後、基礎学力補習）」等の実施。また、成績不振者への補講や精神面でのケア等個別対応を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 総合病院、脳神経外科病院 等			
(就職指導内容) ・ 個別面接による相談対応 ・ 履歴書作成・模擬面接指導 ・ 求人情報の早期開示 ・ 就活ガイダンスの実施 ・ 病院/施設等参加による学内就職セミナー開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) 作業療法士国家試験 22 名合格 (100%)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81 人	5 人	6.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振、学校不適応		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・ クラス担任による初期段階での相談体制 ・ 学科長、副校長、校長による段階的な指導体制 ・ 成績不振の学生に対する補講対応 ・ 外部機関によるカウンセリングルーム開設など		

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		専門課程	言語聴覚学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	125 単位 (2,770 時間)	104 (1,950)	5 (150)	15 (640)		1 (30)	
			125 単位 (2,770 時間)					
学生総定員数		学生実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120 人		80 人	0 人	5 人	34 人	39 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

3年間で、体系的なカリキュラムを通して、言語聴覚士に必要な知識とスキルを段階的に習得することを目指す。

1年次：基礎知識と一般教養を学び、職業理解を深める。

2年次：基本的な医療・支援技術と評価スキルを習得し、コミュニケーション能力を向上させる。

3年次：実践的な臨床技術を習得し、問題解決能力と多職種連携における役割を理解する。国家試験対策を通じて、学びを統合し実践力を高める。

成績評価の基準・方法

（概要）

1年次生の学習成果は、各科目の目標に基づき、試験、提出物、実技試験で評価する。成績評価の基準は、5段階に区分し、評点 90 点以上で S、89～80 点で A、79～70 点で B、69～60 点で C、60 点未満で D としている。2年次生以上の学習成果は、各科目の目標に基づき、試験、提出物、実技試験で評価する。成績評価の基準は、4段階に区分し、評点 80～100 点で A、70～79 点で B、60～69 点で C、60 点未満で D としている。

卒業・進級の認定基準

（概要）

進級については、授業科目の標準授業時間数の 2/3 以上を出席していること、成績評価が C 以上を満たしていることを条件に、所定の会議を経て校長が認定する。

卒業については当該課程のすべての授業科目の単位を修得し、所定の会議を経て、校長が卒業を認定する。

学修支援等

（概要）

学生一人ひとりの学習を支援するため、必要に応じて補講や個別指導を実施し、理解度向上をサポートしている。また、長期休暇中は宿題を課すことで、学習習慣の定着を促すことや授業の中で、様々な学習方法を体験してもらい、学生自身が自分に合った学習スタイルを見つけられるよう促している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 (100%)	0 人 (0%)	17 人 (81%)	4 人 (19%)
(主な就職、業界等) 総合病院、補聴器店 等			
(就職指導内容) ・個別面接による相談対応 ・履歴書作成・模擬面接指導 ・求人情報の早期開示 ・就活ガイダンスの実施 ・病院/施設等による学内就職セミナーの開催			
(主な学修成果（資格・検定等）) 言語聴覚士 17 名合格 (81.0%)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89 人	11 人	12.4%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、病気・けが		
(中退防止・中退者支援のための取組) 早期の職業教育、学外での当事者団体へのボランティア活動等を通じて職業イメージを高めることで進路への納得感を醸成する。		

②学校単位の情報

a)「学生納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理学療法学科	200,000 円	1,170,000 円	275,000 円	その他：入学検定料、教育充実費
作業療法学科	200,000 円	1,170,000 円	275,000 円	
言語聴覚学科	200,000 円	1,040,000 円	175,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
本学委員会規定に基づき、卒業生・企業関係者・地域住民等役職者3名以上で委員会を構成し、8月頃、学校関係者評価委員会を年1回開催。自己点検・評価の結果を報告し、主に次の評価項目（教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果・教育成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、教育の内部質保証システム、財務、社会貢献・地域貢献、国際交流）に対して行う。各委員より評価が客観的に適正か否か、ご意見や助言をいただき、委員会終了後、学校（校長）は学校運営の改善や更なる教育力向上を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
社会福祉法人北翔会 医療福祉センター札幌あゆみの園 地域支援部 部長	令和8年4月1日から 令和10年3月31日	卒業生
医療法人社団明生会 イムス札幌 リハビリテーション病院 リハビリ テーション科 作業療法課課長	令和8年4月1日から 令和10年3月31日	企業等委員
日本医療大学 リハビリテーション 学科作業療法学専攻 教授	令和8年4月1日から 令和10年3月31日	その他教育に関する 有識者
医療法人 札幌麻生脳神経外科病 院リハビリテーション科長	令和8年4月1日から 令和10年3月31日	企業等委員
札幌医科大学 医学部神経精神医 学講座 准教授	令和8年4月1日から 令和10年3月31日	卒業生保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/		
(備考)		
第三者評価が未実施 学校関係者評価結果につきましては、本学園規程により、原則、自己点検・評価終了後3ヶ月以内に開催することになっており、今年度は8月の開催を予定しているため、現在公開されているものが最新となる。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
https://yoshida-g.ac.jp/disclosure/rehabili/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H101310100218
学校名（〇〇大学 等）	専門学校北海道リハビリテーション大学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人吉田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		121人（ 59 ）人	111人（ 56 ）人	108人（ 54 ）人
内 訳	第Ⅰ区分	37人	34人	
	（うち多子世帯）	（ 10 人）	（ - 人）	
	第Ⅱ区分	25人	21人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅲ区分	15人	11人	
	（うち多子世帯）	（ - 人）	（ - 人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	11人	11人	
	区分外（多子世帯）	33人	34人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				108人（ 54 ）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	- 人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	0人	0人	0人
計	- 人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	- 人
3月以上の停学	0人
年間計	- 人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	- 人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	16人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	- 人	0人	0人
計	17人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。